



佐藤春夫『西班牙犬の家』論(二〇一四年度卒業論文  
要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-11-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, 咲良 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007489">https://doi.org/10.32150/00007489</a>

## 佐藤春夫『西班牙犬の家』論

近代文学研究室 一四二七 藤原 咲良

本作は、行動する「私」を現在進行形で語る「私」と、全て経験した後で回想して語る「私」が登場する一人称小説である。従来の研究では「中老年人」に変身する「西班牙犬」が注目されてきたが、本研究では愛犬の「フラテ」に注目した。「友達」、「家来」といった位置づけや、「彼」、「犬」といった呼称が変化している「フラテ」には、「思いもかけぬようなところ」への案内者、「現実」の保証人という役割があった。

次に、「思いもかけぬようなところ」に注目すると、「不思議な家」を覗き見たときのみ、「私」は「思いがけぬこと」が起きたと捉えていることが明らかになった。ただし、「西班牙犬」の変身は「私」だけが覗き見たものであり、「フラテ」は登場していない。そして、作者の他作品には、「限られた視点」から覗き見たものと空想したものとを兼ね合わせるという特徴が見られる。本作では、変身を覗き見たことが重要だったのである。また、これまで不明であった「水盤」や「四級」の階段は、ワシントン・アーヴィングの『アルハンブラ物語』等を踏まえたものであることを明らかにした。

本研究では、「西班牙犬」は変身していないと考えた。「現実」世界にいる読者に「私」の「夢」を覗き見せる。これにより、初めて読者は副題にある、「現実」で「夢」を見ているような「夢見心地」になることができるのである。